

会報

熊本県日中協会

平成27年
8月発行

通刊92号

～さらなる友好の絆を～

《発行》
熊本県日中協会
会長 米満弘之

《事務局》
〒860-0846
熊本市中央区城東町4-2
熊本ホテルキャッスル2F
Tel 096-356-4847
Fax 096-325-2829

積み重ねよう友好の輪

会員拡大でより充実へ

平成27年度
総会

平成二十七年の熊本
県日中協会総会が七月一日
(水)午前十一時から、熊
本ホテルキャッスルで開か
れ、二十七年の予算案な
どを承認しました。



熊本ホテルキャッスル地階ののクリスタル
ホールで、75名が参加して行われた平成
27年度総会



を挨拶
と交換
交流の
でよう
来よう
のま
深い
互いの
深め
する

会を知り、話し、お土産を
買って思い出を作ることが
交流の基本です」と挨拶。
そして来賓の小野泰輔副
知事が「中国から大型クルー
ズ船が次々八代港にやって
来ます。熊本の良さを実感
してもらうよう皆様のご支

援をお願いします」また張
梅・中国駐福岡総領事館副
総領事も「九州は民間交流
で一番活発だと思っています。
各団体の皆様が両国関係改
善のため尽力され、留学生
への支援のため貢献、努力
されていることに、感謝し

ます。昨年、九州の各県代
表団が訪中された際、熊本
だけが唯一、県知事でした」
と挨拶。

いよいよ総会に入り、小
野友道常任理事を議長に選
出。平成二十六年度の事業
報告と決算報告、監査報告



ご来賓の(左から)小野泰輔副知事、
張梅副総領事、沢田一精元県知事

～懇親会でスピーチする新会員の皆さん～



佐々木龍児氏



宮崎司氏



白瀬貴美子氏



安田征史氏

を承認。続いて同二十七年
度の事業計画、予算案、同
年度役員選任を承認。
連絡・報告事項として新
入会員の紹介、第二回熊本・
上海子ども将棋交流大会の
説明などがありました。
このあと特別講演で理事
の高野正博氏(高野会会長)
が「中国と三十五年のお付
き合い」と題して話しまし
た。(詳細は二面)

講演後の懇親会は、新副

会長の小杉直日中友好熊本
県議会議員連盟会長の乾杯
で始まり、新役員や新入会
員の皆さんがスピーチを行
い、楽しく懇談しました。

主な事業計画

- ◎日中交流の推進事業
- ◎会報の発行
- ◎協会運営の活動強化
- ◎第34回・熊本春節祝賀会
- ◎交流会等の実施
- ◎県中国残留孤児等対策協議会への協力

第22回 熊本国際交流祭典

2015 11/7 (土) 11:00~16:00

健軍商店街「ピアクレス」

日中協会も参加して、手作りの中華菓子や
ワンタンを販売します。是非お越しください。

くまモンと記念撮影におさまる
上海の子どもたち

「熱戦、そして交流」 上海の子ども達と第2回将棋大会



引ア
ち将棋
を棋東氏
た本許健
も日た
のてき
上海の
率5マ

今年で二回目となる「熊
本・上海子ども将棋交流大
会」が七月四日(土)、熊本
市中央区九品寺の県教育会
館で開かれ、交流を深めま
した。県日中協会主催。

上海から小学一年から中
学二年生まで十人が、日本
将棋連盟上海支部長の許建
東さん(五二)に引率され

上海の学校授業にも取り
入れつつある将棋。熊本の
十六人といよいよ実力に合
わせて、手割票で駒落ちし
て対戦。しかし、さすがに
「本場」には苦戦。李謙益
君「中学二年」は「強い、
難しい」を連発。中には負
けて泣き出し、付添いの母
親に抱きつく女の子も。
大会を運営した日本将棋



真剣勝負の日中の子どもたち

県日中協会総会の特別講
演で同協合理事の高野正博

一冊の専門書がきっかけ

高野正博理事が総会で講演

35年の日中交流を語る



療会
社会
高野
正博
氏
演した
講法
長

氏(高野会会長)が「中国
と三十五年のお付き合い」
と題して講演、スライドを
交えながら以下のように述
べられました。要旨は次の
通り。

中国とのきっかけは三十
八年前、日本大腸肛門学会



日中オストメイト交流会

で医学用語が問題になり、
中国の専門用語が載った本
を買って貰ってからです。

付き合いは人づてに広め
ていきました。また、学会
で知り合いになると、それ
をきっかけに仲良しに。お
陰で友好病院は二十五に、
また人的交流で中国から招
いた研修者は百八人にのぼ
ります。

同疾患の薬物療法の研究と
開発④双方の医療技術者の
育成⑤伝統的な漢方医学と
現代医学の成果交流の強化。
最後にお付き合いで感じ
たことは、中国で仕事をす
る上での付き合いの仕方は
①中国人は面子をおもん
じる②長い歴史と風土③利
にさとい④とことんまで信
頼するなど。

交渉力ではかなわないこ
とがわかりました。

連盟県支部連合会の古橋徹
会長から全員に賞状が渡さ
れ、熱い戦いも終了。この
あと、熊本機能病院内に会
場を移し、歓迎会が開かれ
友好を深めていました。



きみと未来をつなげる

クマガク

熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

商学部・経済学部・外国語学部・社会福祉学部

〈お問い合わせ:入試課〉

〒862-8680 熊本市中央区大江2丁目5番1号

☎0120-62-4095 www.kumagaku.ac.jp

歓迎レセプションは、大会参加者やその家族、日本将棋連盟県支部連合会や協会会員ら総勢七〇名が参加して行われました。

小野友道常任理事の歓迎の挨拶、上海将棋倶楽部代表の許建東氏の挨拶の後、記念品の交換。磯田淳県国際課長の音頭で乾杯すると、熱戦のあとお腹がペコペコだった子どもたちは、すぐにバイキングコーナーに集

なごやかに歓迎会 子ども将棋交流大会



くまモンも子どもたちと一戦交えました

まり、お皿にたくさん料理をのせていました。

今年も会員の西田田鶴子



全員で乾杯



将棋を終えて賞状を手にする上海の子どもたち



小野理事から記念品贈呈

先生が設置してくださった茶道体験コーナーが大人気の上海の子どもたちも付添いの家族も、美味しい美味しさと、何度も御代わりしたり、教えてもらいながらお茶をたてるのに挑戦したりと楽しんでいました。

最後に、日中の子ども達の代表がそれぞれ感想を述べ、熊本市の田端文二シティープロモーション課副課長の閉会の挨拶で歓迎会は終了。



照れくさそうに挨拶する岡村圭剛君

「とても楽しかった」と池田光佑君



上海の子どもたちの感想は「日本の子は強い。ハンディ戦で勝っても悔しい」でした

帰りがけには日中の子どもたちに県が用意してくれたたくまモングッズがプレゼントされました。



熊本と上海の子どもたちのプレゼント交換



池田光佑君（中央）はお小遣いで買ったお菓子を上海の子どもたちにプレゼントしてくれました



西田先生からお茶いただきました



今回も大活躍の西田先生（前列左）ご一行

社会福祉法人 慈永会



- はまゆう療育園
- 第2はまゆう療育園
- 養護老人ホーム 寿康園
- 特別養護老人ホーム 梧葉苑
- ケアホーム托生
- ふれあいスペース 如水館



〒863-2502
熊本市天草郡苓北町上津深江278番地2
TEL : 0969-37-0165 FAX : 0969-37-0161

中国語会話に花が咲く フェリーで島原へ 和陸会の日帰り旅行

熊本県中国残留孤児等対策協議会の高齢帰国者支援事業「和陸会」の日帰りバス旅行が、五月七日（木）四十七名が参加して行われました。



旅館入り口の銘木に大はしゃぎ

今回の行先は、長崎県の雲仙。車酔いで長距離のバス移動が苦手な方が多い帰国者の皆さんですが、フェリーの利用で快適です。フェリーの中では、仲良しグループごとに、豪華な

ソファアに座って海を眺めながら、中国語でのおしゃべりに花が咲きました。行先の旅館には、大きな木のオブジェがたくさんあり、帰国者たちは大喜びです。近くまで行って覗き込



いろいろあって目移りしちゃうな～

んだり、記念写真を撮ったりして大騒ぎ。昼食はバイキングで好きなものをお腹いっぱい食べ、旅館の大浴場や露天風呂、観劇など、思い思いに楽しみました。当日はあいにくの雨でしたが、お孫さん達へのお土産をいっぱい抱えて、嬉しそうに帰りのバスに乗り込んでいました。

県日中協会は中国残留孤児等対策協議会の業務委託を受けており、これらの活動を通じて中国帰国者を支援しています。

日常生活を紹介

九州各県の中国人留学生ら



日常の話題をテーマに、映像で紹介する学生たち

九州各県に在住の中国人留学生らが制作した撮影展覧会「九州と中国」が六月二十七日（土）午後一時半から、熊本大学工学部の記念館でありました。熊本地区中国留学人員联谊会主催、各県の代表がそれぞれの日常生活や地域の特色、出会いなどをテーマにDVD



協賛者から参加の留学生に記念品贈呈

に撮影した作品を持ち寄って、九州地区の留学生らが交流を深めようと、今年初めて開催。展覧会には十一展が出品、うち福岡からは

四大学、山口大学も参加。例えば長崎大学の作品は、中国と関係の深い崇福寺や眼鏡橋、長崎の夜景など歴史をたどりながら紹介。佐賀大学はバールン大会の模様、徐福長寿館での浴衣体験など。熊本大学は主催者代表の孫敬軒さんの日常を「フローとスネイプ」と題して巧みに撮影。会場からは各作品のたびに拍手が沸いていました。

ヤン ブ ジェン シン ブ ファン 眼不見，心不煩



顔を合わせなければ心配することもない
～ 知らぬが仏 ～



お土産を抱えてバスに乗り込む帰国者ら

編集後記

中国のことわざと四字熟語を掲載して久しくなりました。日本でもよく使われる似た言葉を探しては、百聞は一見にしかず（百聞不如一見）とか、備えあれば憂いなし（有備無患）、遠い親せきより近くの他人（遠親不如近隣）など。しかし、全く違った言葉も。生活習慣や価値観の違いでしうか。

先日、青木事務局長が本棚の隅から「こんなものがある」と中国の故事成語辞典を探し出してきました。中を開いてみると、日本では日常あまり使わないものばかり。さては電子辞書のことわざを見ても、中国式表現が多々。

ことわざはそれぞれの国の生活や風土から生まれた、風刺や教訓、知識などであり、同じ漢字の国でも日本と異なるものがあるのも当然でしょう。ちなみに単語もトイレ、トペーパーは「手紙」、封筒は「封信」、新しいものでは携帯電話は「手機」です。

（機関紙編集委員会

小串照彦